

WEEKLY SIGNAL

平成27年6月19日(金) 1279号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	6/22(月)	6/23(火)	6/24(水)	6/25(木)	6/26(金)
無担保O/N			0.030%	0.125%	
銀行券	△100	△1,000	△2,000	△2,000	△3,000
財政他	+17,700	+1,000	+3,000	+4,000	△2,000
資金需給	余17,600	ト ン	余1,000	余2,000	不5,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債発行(5・10・20・30・40年) 国債償還(5・10・変動15年)			交付税特会借入・償還	
オペ期日	国債買入 +11,900 共通担保(全店) +1,100 ETF買入 +200				被災地支援 △500
オペスタート	共通担保(全店) △1,100 CP等買入 △600 社債等買入 △200 国債補完供給 +100				
(日本)	日本銀行・金融経済月報(6月) 公社債投資家別売買高(5月)	日銀営業毎旬報告(6/20現在) 日本銀行が保有する 国債の銘柄別残高 日本銀行による国庫短期 証券の銘柄別買入額	金融政策決定会合議事要旨 (5/21-22分) 企業向けサービス価格(5月)	対外対内証券売買(前週分)	消費者物価指数 (全国5月、東京都区部6月) 家計調査(5月) 完全失業率(5月) 有効求人倍率(5月) 製造業部門別投入・ 産出物価指数(5月)
(海外)	米 中古住宅販売件数(5月) 欧 ユーロ圏緊急首脳会議 (ブリュッセル) 欧 ユーロ圏消費者信頼感 (6月速報)	米 耐久財受注(5月) 米 新規住宅販売件数(5月) 米 ハウエルFRB理事が講演	米 1-3月GDP(確定値)	米 個人所得・支出(5月) 米 新規失業保険申請件数 (20日終了週) 欧 EU首脳会議 (ブリュッセル、26日まで)	米 ミシガン大学消費者 マインド'指数(6月、確定値) 米 カンザ'シティ連銀総裁が講演

＜インターバンク市場＞

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.100 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

＜CP＞

当座預金残高は週初、年金定時払いを主因に前週末比7兆8300億円増加の219兆8500億円であった。その後は16日の短  
国・国債買入などによって増加し、週末は223兆5800億円で越週した。無担保コールON物の加重平均金利は、積み期をま  
たぐ週となったが、波乱のない展開となり、週を通して0.073~0.076%の狭いレンジで推移した。ターム物は、1W物で  
0.117%の出合い。期越えのターム物には目立った動きがなかった。17日、日銀は貸出増加支援制度の6月分の貸付額が2  
兆1369億円になると発表した。この内、日銀当座預金取引先ではない金融機関への貸付は1056億円となった。これにより、  
同制度の貸付残高は23兆1086億円となる見通し。

＜TDB＞

今週の入札発行額は約8800億円で、期落ち額約6100億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。カード会社で大きな発行  
があり、発行総量を押し上げた。  
a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%台後半~0.100%台後半と、ほぼ横這いで推移した。期内償還物は、  
0.100%前後での出合いが中心であった。現先レートの中心は、0.070%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は  
約2兆3600億円となっている。賞与や配当の手当て、どの程度継続発行されるかが注目される。

＜レポ＞

足許GCは先週末に引き続き0.065%近辺の出合から始まり、週央まで概ね0.06~0.07%のレンジで推移した。発行が重なる振替停止期間明けの22日受渡では、S/N時点で  
0.08~0.085%、T/N時点では0.09%までレートが上昇。週末も特段レートに変化はなく、0.085%を中心とした出合をつけ越週した。SCは10年337・338回債がO/N物・  
ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。10年337回債は2W △0.20%、10年338回債は2W △0.15%アラウンドのビッド気配が目立った。2年債は351・352回  
債、5年債は122・123回債、10年債は325・329・337・338回債に引合が多く見られた。

19日の日銀金融政策決定会合では金融政策の現状維持が決定された。同時に「金融政策決定会合の運営の見直しについて」が発表され、①展望レポートの年4回化、  
②政策委員全員の経済・物価見通し及びリスク評価の公表、③「主な意見」の公表、④金融政策決定会合の開催頻度の見直し、が公表された。これにより2016年1月以  
降の決定会合の開催頻度は年8回となる。来週の予定は、CPI、失業率(26日)、海外では米1-3月GDP(24日)などが挙げられる。

＜オープン市場＞

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.080 ~ 0.090
TDB 3M	△0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.070 ~ 0.100

＜レポ＞

18日に国庫短期証券3M第540回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0019%(前回債0.0020%)、平均落札レートは0.0000%(前回債0.0012%)と前回債から利回り  
にほとんど変化はなかった。セカンダリーは3Mで0.000%近辺の出合い。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.06%近辺の地合いであった。来週25日に3Mの  
入札が行われる予定である。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資に  
ついての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見  
や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。